



副反応について

接種後の主な症状として、接種部位の発赤（赤くなること）や腫れがあります。また、発熱が数%の人にみられます。通常は一時的なもので数日で消失しますが、接種後1週間は体調に注意しましょう。

接種スケジュール

接種の回数は、接種をスタートする年齢（月齢）により異なりますので、ご注意ください。

※他の予防接種との同時接種は、医師に相談しましょう。



指定医療機関

必ず事前予約をして、受診してください。

医療機関名	住所	電話番号	ヒブ	小児用肺炎球菌
いげざわこどもクリニック	野々島 2461	242-6633	○	○
大森医院	竹迫 1983-2	248-0003	○	○
ナカシマセブンクリニック	須屋 1415-5	288-0777	○	○
まつもとこどもクリニック	須屋 264-4	338-8960	○	○
みやの小児科	幾久富 1866-513	248-5800	○	○

※菊池市、大津町、菊陽町にも指定医療機関があります。詳しくは健康推進班までお問い合わせください。

●母子健康手帳の交付

保健師が、妊婦さんの体調などを聞きながら母子健康手帳の使い方や妊婦健康診査について説明を行います。

とき 平日、午前8時30分～午後5時

ところ 健康づくり推進課（西合志庁舎）

※健康育児相談でも交付しています。日時などは35ページのお知らせカレンダー、健康づくり事業計画表をご覧ください。

持参する物 印かん、医療機関から発行された妊娠届出書



●熊本県小児救急電話相談

夜間のお子さんの急な病気への対応や応急処置などを相談できる窓口です。

相談時間

毎日・夜間

午後7時から午前0時

☎ # 8000

(ただし、ダイヤル回線・IP電話・光電話からは☎ 364-9999)

ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン接種費用の助成を行ないます

本市では、任意の予防接種である「ヒブワクチン」「小児用肺炎球菌ワクチン」の接種費用の助成を行ないます。

これらのワクチン接種は、任意接種のため本人または保護者が希望する場合に行なうものです。接種

の際は、予防接種の効果および副反応などについて十分ご理解のうえ、接種を希望するかご判断ください。

なお、指定医療機関以外および実施期間外にワクチン接種を受けた場合の接種費用の助成はありません。

●実施期間 5月1日～平成24年3月31日

●持参するもの ・母子健康手帳
・住所が確認できるもの(健康保険証など)

●対象者・接種料金

指定医療機関窓口で自己負担額をお支払ください。

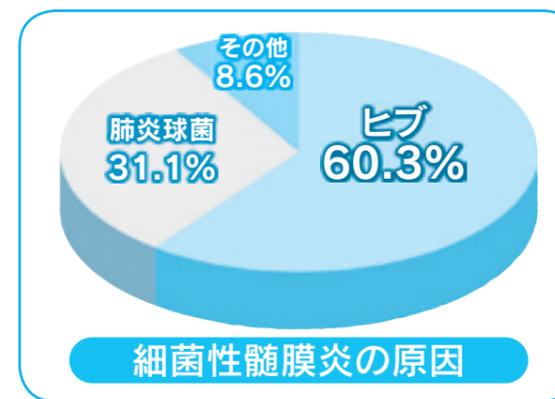
(単位：円/回)

ワクチン種別	対象者	接種費用	市助成額	自己負担額
ヒブワクチン	2カ月～5歳未満の乳幼児	8,800	6,800	2,000
小児用肺炎球菌ワクチン		11,200	9,200	2,000

※1 生活保護受給者は、全額助成します。事前に福祉課窓口で「生活保護証明」の発行を申請（印鑑持参）し証明を受け取り、接種の際、指定医療機関に提出してください。2 回目以降を受ける際も同様の手続きが必要です。

乳幼児の細菌性髄膜炎について

細菌性髄膜炎は、子どもの命にかかわるこわい病気です。この病気を起こす細菌はいくつかありますが、原因の80～90%は、「ヒブ（インフルエンザ菌b型）」と「肺炎球菌」です。これらの細菌は、鼻やのどの奥にいる身近な細菌ですが、体力や抵抗力が落ちたときなどに、脳や脊髄を包んでいる髄膜に進入して炎症を起こします。



初期症状は、発熱や嘔吐などで通常のかぜの症状と似ているため、早期に診断することがとても難しい病気です。さらに最近では抗生物質の効かない菌（耐性菌）も増えてきており、治療が困難になってきています。

日本では、年間500～700人の5歳未満の子どもが細菌性髄膜炎にかかっています。このうち2～5%の子どもが命を落とし、約20%の子どもが発達障害や聴覚障害などの後遺症をかかえることになると推計されています。

ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンについて

「ヒブワクチン」と「小児用肺炎球菌ワクチン」は、細菌性髄膜炎などの感染症を予防するワクチンです。この2種類のワクチンを接種することで、細菌性髄膜炎の約90%を予防できます。